

# サタデープログラムニュース<sup>35th</sup>

講座番号 7 第 1 部 9:30~11:00

## 三木一馬のライトノベル道

講師：三木一馬さん(ライトノベル編集者)



1977 年生まれ。上智大学理工学部卒業後、メディアワークス (KADOKAWA アスキー・メディアワークスの前身) に入社し、電撃文庫編集部配属された。電撃文庫、電撃文庫 MAGAZINE の編集長を務めたのち、2016 年に退職。その後は株式会社ストレートエッジを設立し、代表取締役役に就任した。現在も外部担当編集者として電撃文庫に関わっている。

### ライトノベル編集者とは？

編集者という言葉を知っている人があると思う。だがライトノベルという言葉に耳なじみがある人は編集者という言葉を知っている人に比べると少ないだろう。

本題を始める前にまずライトノベルについて説明しよう。ライトノベル(通称ラノベ)とは青少年向けに販売されている娯楽小説のことだ。表紙にアニメのキャラクターのような絵をあしらっているのが特徴だ。代表的なもので言えば、近年、世界でも大人気の「ソードアート・オンライン」や「とある魔術の禁書目録」などが挙げられる。メディアミックス(ひとつの作品を別ジャンルのメディアでも展開する手法のこと)も活発に行っており、一般的には漫画やアニメになることが多い。深夜に放送されているアニメの多くがこのライトノベルが原作となっている。

本題に進もう。今、一般的に広まっている編集者に対する認識と実際のところには懸隔があるわけではない。作家と二人三脚で作品を作り出していく存在だ。編集者の主な仕事内容は以下の通りだ。

- (1) 作家と打ち合わせをし、作品の方向性を決めていく。作品の根本に関わることであるので作家と衝突することも少なくない。
- (2) 締め切りを守るように作家のスケジュール管理をする。
- (3) 原稿が上がったあとも、校閲や印刷所といった各所と調整を取り本がつくられるまで進行管理をする。

上記のようになっている。編集者にとって重要なことはいかに本を予定通りに出すかということなのだ。長い間担当編集として作家に接しているとその人の特徴が見えてくる。例えば締め切りを過ぎてから原稿を書き始めたり、必ず締め切りから 1 週間過ぎてから提出したりする作家も中にはいる。そういう作家にたいしては、嘘の締め切りを設定することもあるようだ。そのように、担当編集は作家一人ひとりに対して向き合い方を変え、締め切りに間に合わせるのだ。

### ライトノベルの現状

ライトノベルは近年大きく変化しつつある。今までは各レーベルに新人賞として送り、そこで書籍化するというのが一般的であった。だがその形態が崩れているのだ。それは小説投稿サイト「小説家になろう」の存在だ。

そのブームに一石を投じたのは三木氏が担当編集を務めた「魔法科高校の劣等生」や実写化映画が大ヒットした「君の膵臓が食いたい」などが挙げられる。そこから「小説家になろう」が注目を浴びようになり、「小説家になろう」のランキング上位が次々と書籍化を果たすようになっていく。今ではそのブームで書籍化した作品を総称して「なろう

系」と呼ぶほどまで大きくなった。そして他の小説投稿サイトも誕生していき、空前絶後の書籍化ブームの真っ最中なのだ。

それに伴い新しいライトノベルレーベルも多く誕生した。しかし、自分たちでヒット作を当てようとするのではなく、小説投稿サイトに投稿されている作品を書籍化している。新人賞を開いたとしても小説投稿サイトと連携して行っているので、結局のところは小説投稿サイトに依存しているのだ。その他では下手な鉄砲も数撃ちやあたると言わんばかりにランキング上位の作品に書籍化打診の知らせをしている。

新規のライトノベルレーベルがこのようなことをやるのにも理由がある。それはレーベルに対する認知度だ。老舗のライトノベルレーベルは長く続いてきたことから多くのライトノベル読者に知られている。老舗レーベルの新人賞作品は必ず買うといった人もいるが、新規レーベルだとその割合が少ない。下手を打てば認知されることがなく、作品が打ち切りになる。それだけでなく、レーベルそのものがつぶれてしまう可能性がある。それを避けるために行われた結果が web 作品の書籍化ブームだ。web で人気の小説だと作者が報告するだけである程度の購読者を得ることができる。更にストックも web 上に多く存在しているため短いスパンでの刊行が可能だ。ある程度の客が短い間隔で発売されていく作品を買っていくというように予測することができる。しかし現実では無料だから読むがお金を払ってまで読むとは思わないというような読者が多く、成功に持っていくことが容易ではない模様だ。

この書籍化ブームでライトノベルの売り上げはどのようになったのだろうか。ORICON 白書によるとライトノベル売上の上位の六割が web 発の作品となっている。上位に食い込んでいるレーベル発の物は「青春ブタ野郎」シリーズをはじめとするライトノベルでも名が知られている作品だ。この現状を見るとレーベル発の作品が web 発の作品に押されていることがわかる。今後は web 発の作品が次々にアニメ化するというので web 発の作品が売上を伸ばす可能性が高いと思われる。レーベル発の作品が人気作を生み出せるかは各レーベルの編集部にかかっているといえるだろう。

## LINE ノベルとは

web 小説ブームに一石を投じた三木氏が今回新しい風を巻き起こそうとしている。それは「LINE ノベル」と呼ばれる小説投稿サイトだ。三木氏が統括編集長に就任し、LINE と提携して今年 2019 年夏にサービスが開始される。商業作家のみならず、素人が作品を投稿することができる。投稿されている作品は無料で読むことが可能だ。だがそれだけではない。素人が投稿した作品の中で光るものがあるのならば「LINE ノベル」が新たに創刊する「LINE 文庫」、「LINE 文庫エッジ」から書籍化することができる。前述した「小説家になろう」も同様に書籍化することが可能だ。しかし「LINE ノベル」にはそれとは大きく異なり業界の中でも大きい企業がバックについているのである。既存の小説投稿サイトであれば出版をすることができても、メディアミックスには至れない可能性が高かった。だが「LINE ノベル」はアニプレックスや日本テレビが新しい題材発掘の場としているため、メディアミックスに至る可能性が他よりも高いと思われる。

では何故新しく小説投稿サイトを作ったのか。既存の同サービスと連携すればよいと考えるかもしれない。しかしそれでは新しい客層を得ることができないのだ。「LINE ノベル」は「LINE」のサービス 1 つである。「LINE」そのものが多くの若者に浸透しているコンテンツである。そこに新たなサービスとして「LINE ノベル」を利用できるようにすることによって今まで読書に縁がなかった人も読む可能性が生まれるのだ。現代社会では若者の本離れが深刻になっている。「LINE ノベル」はそれを食い止める 1 つのきっかけになるかもしれない。

## 当日は

- (1)新人賞の各審査毎のポイントを解説
- (2)新人賞を取ってからどのようなことをするのか
- (3)編集者から見ていい作品とは何か

このようなことをお話していただきます。電撃文庫元編集長で敏腕編集者の三木さんだからできる話です。ライトノベル作家志望の方はぜひお越しください。

LINE ノベルの会員登録は下記のアドレスから(PC からの登録に限ります) <https://novel.line.me/>

文責:高校2年C組 西野